MOTOROLA

特定小電力トランシーバー

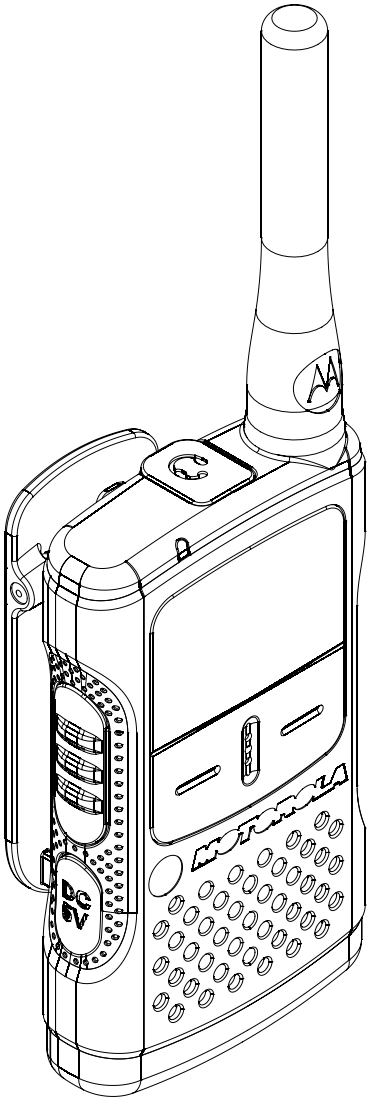
CL08

総務省技術基準適合品

47 チャンネル

取扱説明書（詳細版）

このたびはモトローラの特定小電力トランシーバー CL08 をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書は同梱されているクイックマニュアルの詳細版です。
ご使用される前に本書内の“製品の安全性と電磁波による影響”および“安全上のご注意”をお読みください。
このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。



モトローラ特定小電力トランシーバーの
お問い合わせ先

TEL：03-6365-7000

ホームページ：
http://motorolasolutions-pcr.jp/index.php

クイックマニュアルや取扱説明書詳細マニュアルの最新情報は、上記 URL を参照してください。QR コードで弊社ホームページへ移行できます。

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。
モトローラ、MOTOROLA、モトローラ・ソリューションズ、MOTOROLA SOLUTIONS およびモトローラのロゴマークは Motorola Trademark Holdings, LLC. の登録商標であり、そのライセンスに基づき使用しています。文中に記載されている他の製品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。

モトローラ・ソリューションズ株式会社 PCR 事業部
〒 106-0032　東京都港区六本木 1-8-7 アーク八木ヒルズ

© 2014 Motorola Solutions, Inc. All rights reserved.

目 次

特定小電力トランシーバーの保証と責任 3
製品の安全性と電磁波による影響 5
安全上のご注意 7
その他の安全上のご注意 8
充電池（PMNN4467A）をお使い頂く前に 8
取り扱い上のお願い 8
防水性能について 9
電波法上のご注意 9
構成品 9
1. 各部の名称と機能 10
本体 10
LCD ディスプレイ 10
2. お使いになる前に 11
電池の入れ方 / 出し方 11
ニッケル水素充電池の充電方法
～約 4 時間充電～ 11
使用時間の目安 11
正常に動かないとき　～工場出荷時リセット～ 12
3. 基本的な操作 13
基本的な使いかた 13
1. 電源を入れる 13
2. チャンネルをあわせる 13
3. 音量を調節する 13
4. [通話 (PTT)] を押しながら話す 13
キーパッドをロックする 14
一時的にモニターをする 14
通話モードの設定 15
グループ呼び出し呼び出しモード 15
DCS(デジタルコードスケルチ) を使用する 16
秘話モード 16
セットメニューの操作 17
セットメニュー一覧 17
VOX 機能　～音声で自動送信する～ 18
4. 便利な機能 19
コールバック機能
～通話可能か常時チェックしたい～ 19
セレコール機能　～特定の局を呼び出したい～ 20
呼び出し音送出機能
～相手をコールサインで呼び出したい～ 22
中継機能　～通話距離をのばすには～ 23
5. その他の機能設定 24
スキャン機能　～受信信号を探す～ 24
自動チャンネル選択機能
～空チャンネルを探す～ 25
コンパンダー機能
～バックノイズを軽減する～ 25
音質切り替え機能
～高域を強調した受信音にする～ 25
スケルチレベル設定
～耳障りなノイズを消す～ 26
PTT ディレイ機能
～耳障りなノイズを消す
（グループ呼び出しモード）～ 26
オートパワーオフ機能
～電源切り忘れ防止～ 26
ビープ音の設定　～ボタン操作確認音～ 27
送信ビープ音の設定　～送信操作確認音～ 27
PTT ホールド機能（内蔵マイクのみ） 27
送信禁止機能
～ガイドシステム子機として使用時に便利～ 27
送受信状態表示の設定 28
照明ランプの設定 28
外部マイクの感度設定（外部マイクのみ） 28
内部マイク自動感度切り替え機能 28
クローン機能　～同じ設定に複製する～ 29
6. 付 録 30
故障かな？と思うまえに. 30
定格 31
CL08 概要一覧 32
CL08 チャンネル / 周波数相対表 33

特定小電力トランシーバーの保証と責任

I. 保証対象及び保証期間 :

本特定小電力トランシーバーは、モトローラの品質基準の基にモトローラ・ソリューションズ株式会社（以下「当社」といいます）で製造されたものです。
当社は、正常な使用状態で下記の特定小電力トランシーバー（以下「製品」といいます）の材料上又は製造上の欠陥に対し、ご購入日より以下に示す保証期間内の保証を行います。

トランシーバー本体. . . . . 1 年間

当社は本保証規定に従い、保証期間内は無料で製品の修理（純正部品を用いて）、交換を致します。本体の保証期間に関しましては、お客様がご購入になった製品の保証期間で算定されます。交換した製品または部品は当社の所有となります。
本保証書は製品ご購入者に限り有効であり、第三者に譲渡されるものではありません。
当社役員による署名付きの書面での同意がある場合をのぞき、本保証書への追加及び変更に対して、当社はいかなる義務及び責任を負いません。当社と製品ご購入者の間で個別の同意がない限り、当社は製品の取り付け、メンテナンス又はサービスの保証は行いません。
当社は、製品に装着又は接続して使用される当社及びモトローラ供給以外のアクセサリーを使用した製品の運用に対し、いかなる責任も負いません。
通信システムで本製品が使用される場合、当社は、そのシステム全体、サービスエリア、運用等をまとめて本保証規定で保証するものではありません。

II. 保証規定 :

本保証書は、製品に対する当社の責任と保証を定めたもので、一切の保証は保証期間内に限定されます。当社は当該製品の使用もしくは不使用に起因するご購入者の被る逸失利益、業務の中断、機会の損失やこれらに類する損害、または二次的損害等についての責任を負いません。

III. 以下は保証対象外となります :

Ａ）製品を正常かつ通常の使用方法でお取り扱いにならないことよって生じた故障及び損傷。
Ｂ）誤った、又は乱暴なお取り扱い、事故、腐食、火災、水害、又は放置によって生じた故障及び傷。
Ｃ）誤った、又は認可されていないテスト、使用、メンテナンス、サービス、修理、取り付け、変更、修正、又は調整によって生じた故障及び損傷。
Ｄ）材料上又は製作上の欠陥に直接起因する以外の理由で生じたアンテナの破損及び損傷。
Ｅ）説明書に記載の使用方法に反するお取り扱いを受けた製品。
Ｆ）製品の性能に支障をきたす、又は正常な保証検査及び補償請求確認のための製品テストを妨げるような、認可されていない改造、加工、分解、純正でない部品又は電池の使用と修理（当社が認可していない装置を使った製品に対する追加を含む）がなされた製品。
Ｇ）製造番号が取り除かれた、又は製造番号が判読できない製品。
Ｈ）利用者の修理が認められていない部品又はモジュールに付いたシールが外れている製品。
Ｉ）修理品発送に対する送料。
Ｊ）製品のソフトウェア / ファームウェアに不法又は無許可の変更が加えられている製品。
Ｋ）製品の運用に影響を与えない、製品の表面に付いた傷、又は外観上の損傷。
Ｌ）正常なご使用においての自然消耗、摩耗。
Ｍ）当社でプログラムされていないメモリーモジュール。
Ｎ）保証期間を過ぎた保証請求。

IV. 特許及びソフトウェア規定 :

当社供給以外のソフトウェア、装置一式又はその一部を備えた製品又は部品の組み合わせに基づいた特許権の侵害請求に関して一切の責任を負いません。また、当社は製品に装着又は接続する、モトローラ供給以外の付属品又はソフトウェアの使用に対していかなる責任も負いません。上記は、製品又は部品に関し、特許権の侵害に関する当社の全責任を提示したものです。
法律により、版権で保護された当社のソフトウェアのコピー制作及びコピー流通の占有権など、当社の特定の占有権は保護されています。当社のソフトウェアは販売時に組み込まれている製品内でのみ使用されるものであり、当該製品の当該ソフトウェアはいかなる交換、コピー、流通、修正及び派生物の製造に使用されるものではありません。当該当社ソフトウェアの無制限の変更、修正、再生、流通、リバースエンジニアリング及び当該当社ソフトウェアが有する諸権利の行使などは禁じられています。当社の特許権又は著作権の元でない限り、いかなる許可も含意及び禁反言によって認められるものではありません。

V. 保証サービスの受け方 :

保証サービスを受けるためには、ご購入を証明するもの（ご購入日と製品製造番号が明記されてあるもの）を添え、ご購入の販売店までご持参又は郵送してください。送料、保険はお客様のご負担になります。

VI. お問合せ先：

本保証規定に関してのご不明な点は下記までご連絡下さい。

モトローラ・ソリューションズ株式会社

PCR 事業部

電話 03-6365-7000

http://www.motorolasolutions.com/JP

製品の安全性と電磁波による影響（トランシーバー用）

本機を他の使用者に譲渡する場合には、使用者は、必ず本機の電磁波についての取り扱いが書かれた説明書（本書）を添えてください。

このトランシーバーは、離れた 2 つの間の通信を提供するため、無線周波数帯の中の電磁エネルギー、すなわち電波を使用しています。無線通信用のエネルギーである高周波エネルギーは、電磁エネルギーの一形態であり、例えば日光や X 線もその 1 つに含まれます。しかしながら、高周波エネルギーは、不適切に使用された場合に生物学的損傷を引き起こす可能性が高い電磁エネルギーと同じように考える必要はありません。（例えば、X 線の非常に高いレベルは、組織および遺伝物質を損傷する可能性があります。）

モトローラのトランシーバーは、以下の高周波エネルギーや電磁エネルギーのガイドラインに準拠しています。

- 米国電気電子学会（IEEE）C95.1
- 国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）

無線通信のための高周波エネルギーを安全に使用するため、科学、工学、医学、健康、そして産業分野に詳しい専門家が協力し、国際的な基準を策定しています。この基準はビジネスや一般的に使用される無線設備から放射される電波の推奨される値を提示しています。この値ついては、保護のため通常かなり余裕をもった値になっています。

すべてのモトローラのトランシーバーは、こうした国際基準の値を満たすように設計、製造、およびテストされています。さらに、トランシーバーの製造業者もトランシーバーを使用されるお客様に安全にお使いいただけるような操作手順をお勧めしています。これらは高周波エネルギーについての知識をお客様にご理解いただき、トランシーバーを安全に使用する方法についての簡単な手順を提供するために非常に重要なことです。

電磁波エネルギー曝露限度（電波が人体に与える影響において、人体が受けても差し支えない限度）について国際基準に準拠するには、以下の手順に従ってください。

- 電磁波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。
- 送信している間、人体暴露を与えています。連続送信するなど、50％送信比率を超えないようにしてください。
- トランシーバー本体やアンテナから鼻や唇が 2.5cm 以上離した状態で、トランシーバーのマイクが顔の前に来るようにして持ちます。アンテナは目から離れた状態にしておく必要があります。

- モトローラ純正のクリップ、ホルダー、ホルスター、アンテナ、電池をご使用ください。

航空機 / 医療機関について

機内、病院、および医療機関では外部電磁波エネルギーの影響を受けやすい機器を使用していることがあります。電源を切るよう指示されている場所ではトランシーバーの電源を切ってください。

ペースメーカー

米国先進医療技術工業会（Advanced Medical Technology Association)(AdvaMed) は、トランシーバーとペースメーカーの間の距離を少なくとも 15cm は維持するかことを推奨しています。ペースメーカーを着用されている方は本機のご使用を控えてください。やむを得ずトランシーバーを利用する場合は必ず、トランシーバーを着用のペースメーカーから少なくとも 15cm 離しておいてください。

何らかの理由により、妨害が生じていることが疑われる場合には、すぐにトランシーバーのスイッチをオフにしてください。

トランシーバーからの干渉の潜在的なリスクについて、医師に相談してください（不十分シールド医療機器が干渉を受けやすくなる場合があります）。

補聴器

トランシーバーは、一部の補聴器に干渉することがあります。干渉する場合は、使用している補聴器メーカーに相談してください。

その他の医療機器

その他の個人用医療機器を使用する場合は、メーカーに相談してください。

安全運転について

運転中にトランシーバーを使用しないでください。

道路交通法、第 71 条第 5 号の 5 の規定により運転中にトランシーバーを手に持って使用することは禁止されています。

事故の原因になりますので、まず安全な路肩に寄せ、停車してから、通信をおこなってください。

または、ハンズフリー用純正アクセサリーのご使用を推奨しています。

音量について

大きな音が原因による聴覚の障害については、ときどき最初は自覚することなく、後になって感じられることがあります。長時間大音量で受信すると聴覚に影響を与えますので、最小限音量で、また短時間で使用してください。

聴覚を保護するには、次の事をお守りください。
・最低限必要な音量で使用してください。
・周囲の騒音で聞こえない時のみ、音量を大きくしてください。
・ヘッドセットまたはイヤホンを接続する時は、音量を下げてください。
・長時間、大音量でヘッドセットやイヤホンを使用しないでください。
・ヘッドセットまたはイヤホンなしでトランシーバーを使用する場合は、直接耳にスピーカーをあてないでください。

安全上のご注意

本文中のマークの意味は次のようになっています。

⚠ 警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠ 注意	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

エアーバッグ

⚠ 警告

・エアバッグの配線との干渉を避けるために、トランシーバーの設置場所を、車両の製造元マニュアルを参照してください。

・エアーバッグの部分、またはエアーバッグが膨らむ場所にトランシーバーを置かないでください。エアーバッグは強い力で膨らみます。トランシーバーがエアーバッグの膨らむ場所に置かれている場合、エアーバッグが膨らみますとトランシーバーが強い力で押され、車の搭乗者がけがをする原因となります。

発破区域での使用

⚠ 警告

・発破区域および雷管の近くではトランシーバーの電源を切ってください。

・爆発に影響を与えないよう、「発破危険」のように表示されている場所では、トランシーバーの電源を切ってください。

・爆発の恐れのある場所に立ち入る場合、立ち入る前にトランシーバーのスイッチをオフにしてください。

・爆発のおそれのある場所とは、ボートのデッキの下などの燃料補給・貯蔵場所、燃料や化学薬品の運送または貯蔵施設、および、空気中に穀物、ほこりや金属粉末などの化学物質や粒子が含まれている領域など、危険なガス、蒸気、または埃がある可能性があり、危険であると分類され、とりわけ爆発のおそれのある場所のことを言います。

・爆発の可能性がある場所での、取り付け、取り外し、および充電をしないでください。火花が散ることによってそれが爆発や火災の原因となり、身体的な損傷や死亡につながる恐れがあります。

アンテナ

⚠ 注意

アンテナが壊れているトランシーバーは使用しないでください。
壊れているアンテナの導体が皮膚に触れ、送信した場合、軽いやけどをすることがあります。

電池

⚠ 注意

すべての電池は、物的損害または傷害を引き起こす可能性があります。
電池は、金属製のものと共にポケットなどに入れたり金属ケースに入れないでください。
端子が他の金属製のものによりショートし、火傷、発火の危険があります。
危険環境下で電池を交換したり、充電しないでください。電池の脱着時に端子から火花が飛び、爆発や火災の原因になることがあります。

不正な修理をおこなったり、ラベルの貼り替えを行いますと、その機器の認定が無効となることがあります。

静電気について

⚠ 注意

静電気が発生しやすい場所・条件でイヤホンでご使用される場合、静電気によって耳の皮膚に電気ショックを感じることがあります。そのような場合はイヤホンを使用しないようにしてください。

アクセサリーについて

⚠ 注意

・当社製機器は、ホームページのリストに掲載されるアクセサリーが認定機関によって認定されています。アクセサリーとの組み合わせは、厳密に遵守する必要があります。

・接触不良の原因となりますので、アクセサリーを使用しないときには、アクセサリーコネクターカバー / フタを付けてご使用ください。

その他の安全上のご注意

運用場所について

警告

ゴルフ場などの野外でトランシーバーを使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますのでトランシーバーを使用しないでください。

その他電子機器との混信

警告

正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。その場合、それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。

衝撃

警告

強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。アンテナが破損することがありますので、トランシーバーを持つときは、アンテナをつかまないでください。

使用環境

注意

・異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

・直射日光のあたる場所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境にトランシーバー本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

充電池（PMNN4467A）をお使い頂く前に

注意

充電池はお引渡し時には、十分充電されていません。ご購入後は、必ず充電してからお使いください。

・ニッケル水素充電池（PMNN4467A）は、周囲温度が 5℃～ 35℃の範囲であることを確認して充電してください故障の原因になります。
・高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放電はしないでください。
・火の中に投入したり、過熱しないでください。
・釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。
・直接ハンダ付けしないでください。
・分解や改造はしないでください。
・充電の際には専用の充電器を使用してください。
・夏期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では充電池の容量が低下し利用できる時間が短くなります。
・水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたまま放置しないでください。
・充電池（PMNN4467A）を使用しない場合には、トランシーバー本体から外して湿気の少ない場所で保管してください。

取り扱い上のお願い

注意

・電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。
・トランシーバー本体の清掃の際は、糸くずのつかない乾いた柔らかい布で汚れを落としてください。
・トランシーバーを直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。
・洗剤、溶剤、アルコールなどでトランシーバーを清掃すると、トランシーバーを傷つけたり破損したりすることがあります。

防水性能について

CL08 は、充電池（PMNN4467A）を装着した状態かつアクセサリーコネクターカバーを閉めた状態で IPX4 相当の防水性能を有しております。

防沫形 IPX4 相当とは、いかなる方向からの水の飛沫を受けても有害な影響のないもの

注意

- 水中で使用しないでください。
- 濡れている状態で充電しないでください。
- マイク、スピーカー部に尖ったものを差し込まないでください。
- 水滴が付着した場合は放置せず水滴を拭き取ってください。
- 雨の中でご利用の際は、雨量にご注意ください。
- 雨の中や水滴が付いたままでの充電池（PMNN4467A）の取り付け/取り外しや、アクセサリーコネクターカバーの着脱は行わないでください。
- 防水性能の記載がある付属品・アクセサリーを除いては、防水性能を有しておりません。
- 熱湯、温風（ドライヤーなど）を CL08 にあてないでください。
- 極端な温度の変化でのご利用は避けてください。結露のため内部が腐食し故障の原因になりますのでご注意ください。
- ご使用になる環境はそれぞれ異なりますので、全ての状態での防水性能を保証するものではありません。

製品本体の防水性能を維持するためには、異常の有無に関わらず保証期間経過後、1 年に一度のメンテナンスをお勧めします（有償にて承ります）。

過失等、故障内容によっては、保証期間内においても有償修理の対象となる場合があります。

電波法上のご注意

- このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。
- 他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。
- 本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令で禁じられています。
- 無線機の使用を禁止されている場所（航空機内・空港敷地内など）では使用しないでください。

構成品

パッケージの仕様は 2 種類用意されています。
お買い上げいただきましたパッケージの構成品をご確認ください。

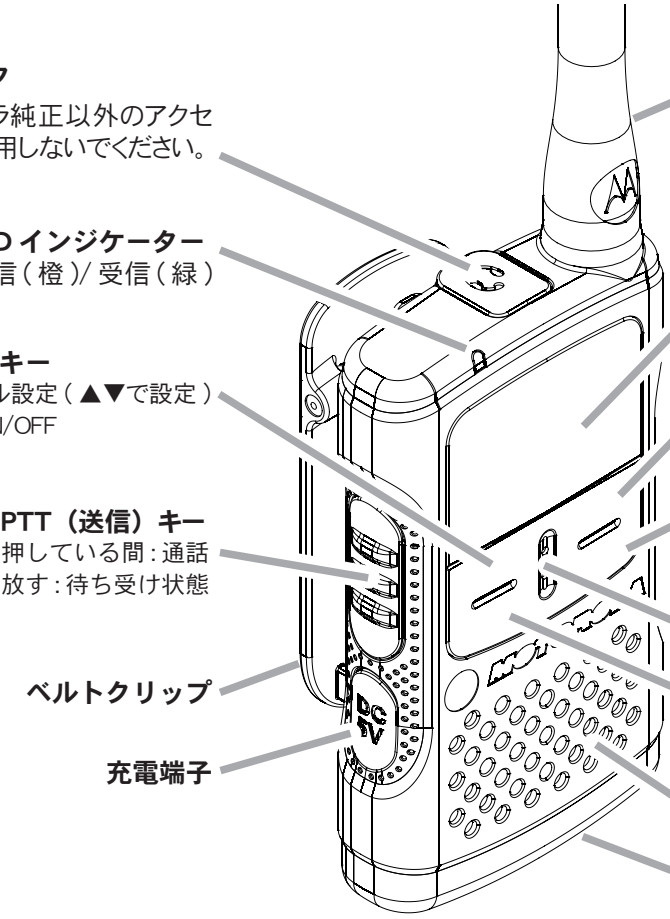
乾電池パッケージ仕様
◎トランシーバー本体（ベルトクリップを含む）
◎クイックマニュアル

オールインワンパッケージ仕様
◎トランシーバー本体（ベルトクリップを含む）
◎ニッケル水素充電池（PMNN4467A）
◎ AC アダプター
◎クイックマニュアル

1. 各部の名称と機能

各部の説明

■本体



SP/MIC ジャック
注意：モトローラ純正以外のアクセサリを使用しないでください。

LED インジケーター
送信（橙）/ 受信（緑）

電源（⏻）/CH キー
短押し：チャンネル設定（▲▼で設定）
長押し：電源 ON/OFF

PTT（送信）キー
押している間：通話
放す：待ち受け状態

ベルトクリップ

充電端子

アンテナ

LCD ディスプレイ

アップ（▲）キー
短押し：押すたびに音量大
長押し：連続で音量大

ダウン（▼）キー
短押し：押すたびに音量小
長押し：連続で音量小

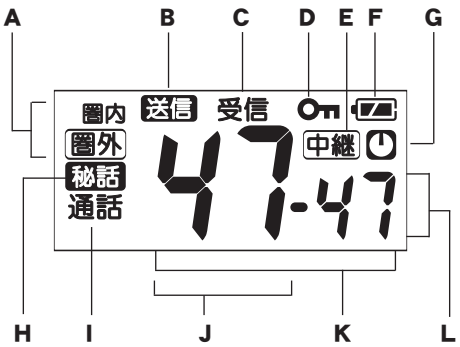
マイクロホン

MODE / 🔑 キー
短押し：グループ呼び出し，秘話の設定
長押し：キーパッドロック（再度長押しで解除）

スピーカー

電池フタ（底面）

■ LCD ディスプレイ



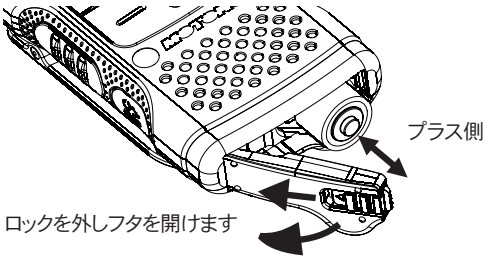
A. コールバック使用時に点灯 “圏内”が点灯（通話可能） “圏外”が点灯（通話不可能）	**F**. 電池残量表示
B. 送信時に表示	**G**. オートパワーオフ表示 オートパワーオフを ON にすると点灯
C. 受信時に表示	**H**. 秘話モード時に表示
D. キーバッドロック表示 キーパッドをロックしたときに点灯	**I**. 3分間通話中表示
E. 中継チャンネル表示 中継チャンネル時に点灯	**J**. チャンネル番号表示
	K. セットメニューの表示
	L. グループコード表示

電池の入れ方 / 出し方

電池を入れる（または電池を出す）

1. 裏面フタのロックを外しフタを開けます。
   対応電池：アクセサリーのニッケル水素充電池 (PMNN4467A)、
   市販の単三形アルカリ乾電池 / 単三形リチウム乾電池
2. 電池をマイナス側から入れます。
3. フタを閉め、 元の状態に戻します。

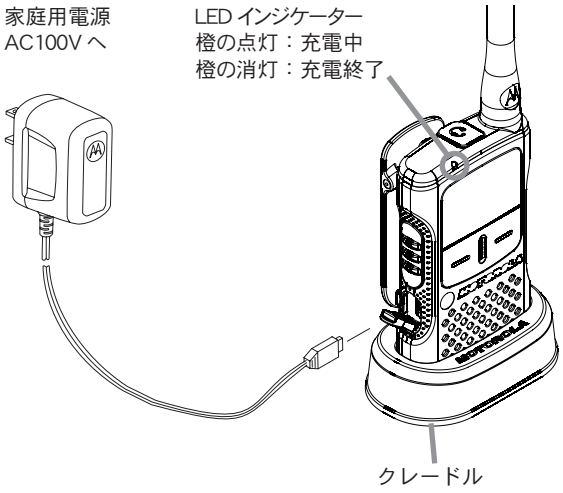
電池を出す時は上記と同様にフタを開け、 取り出してください。



ニッケル水素充電池の充電方法 ～約 4 時間充電～

ニッケル水素充電池を充電する

1. クレードルに CL08 を差し込みます。
   クレードルを使用すると CL08 を立てた状態で充電することができます。
2. CL08 の電源を切ります。
3. CL08 の側面に AC アダプターを接続します。
4. 充電が開始すると CL08 のインジケーターが橙色に点灯しディスプレイに“ ”が点滅します。
   充電時間は、 空の状態で最大約 4 時間です（充電時間はニッケル水素充電池の残量によって変化します）。
5. 充電が終了すると CL08 のインジケーターが消灯しディスプレイに“FULL”が表示され“ ”が点灯します。
6. 充電が終了後 AC アダプターを外してください。



注意

- 充電機能は、5℃～35℃で動作します。
- 充電完了後、本体及び電池が温かくなっていますが、異常ではありません。
- 正常な電池を入れても充電できない場合には、 充電ケーブルを外し、しばらく経ってから充電して下さい。
- エラー（Er）表示について
  - Er 01/02：使用温度範囲外に有ります。室温で使用して下さい。
  - Er 04/05/10：電池電圧に異常があります。電池確認して下さい。
  - Er 03/07/08：充電中に電池に異常が確認されました。電池確認して下さい。
  - Er 06：充電が完了しませんでした。もう一度充電して下さい。

  上記エラー表示が繰り返し表示される場合に、ご購入いただきました販売店および当社事業部（表紙記載）へお問い合わせください。

使用時間の目安

使用できる時間の目安※は次のとおりです。
◎アクセサリーのニッケル水素充電池 (PMNN4467A) ➠ 約 33 時間
◎市販のアルカリ乾電池 ➠ 約 25 時間（日本製の場合）
◎市販のリチウム乾電池 ➠ 約 45 時間（日本製の場合）
※ 6 秒送信、 6 秒受信、48 秒待ち受けの測定条件になります。
上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。

電池残量はアイコン表示で知らせます。

- ➠ まだ使えます。
- ➠ 少なくなりました。
- ➠ 残りわずかです。
- ➠ すぐに充電してください。
  （またはアルカリ乾電池を交換してください。）

2. お使いになる前に

補足 アクセサリーのニッケル水素充電池 (PMNN4467A) について

- ○ ニッケル水素充電池 (PMNN4467A) はアクセサリーです。仕様によっては AC アダプターと同梱されているパッケージがあります。
- ○ 初めて使用するときは、必ず充電してください。
- ○ 充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- ○ 使用せず保管しておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
- ○ 長期間保管した場合は電池容量が低下していることがあります。必ず充電してから使用してください。
- ○ 正しい充電を行っても使用できる時間が短くなってきた場合はニッケル水素充電池の寿命です。
  新しいニッケル水素充電池（PMNN4467A）をお買い求めください。
- ○ 不要になったニッケル水素充電池は、大変危険ですので分解しないでください。端子にテープなどを貼り付けて絶縁し、有限責任中間法人 JBRC に加盟したリサイクル協力店または弊社へお持ちください。

注意

- ● ときどき電池ケースの端子と電池の電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。
  端子や電極が汚れていると、接触不良となり正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
- ● 電池を交換するときは、電源を切ってください。
- ● 長時間使用しない場合は、ニッケル水素充電池 (PMNN4467A) またはアルカリ乾電池を取り外しておいてください。
- ● 充電は常温常湿で行ってください。
- ● ニッケル水素充電池 ((PMNN4467A)、単三形アルカリ乾電池または単三形リチウム乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になります。

正常に動作しない時 ～工場出荷時リセット～

キーを押しても反応しないときや、『故障かな？と思うまえに...』の項目に従って点検しても正常に動作しないときは、次の操作を行ってください。

リセットを行うと、登録した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [▲]、[▼]、[MODE/ ⚿] を同時に押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
   「ピッ」と鳴り、工場出荷時の設定にリセットされます。

3. 基本的な操作

基本的な使いかた

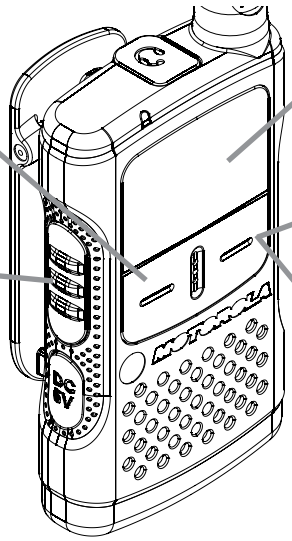
CL08 には、周囲の状況に応じて選べる 3 つの通話モード (ノーマル、グループ呼び出し、秘話) があります。
通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは基本となるノーマルモードの通話方法を説明します。
グループ呼び出しモードと秘話モードは裏面を参照してください。

1. 電源を入れる
[⏻ /CH] を長押しする。

「ピッ」と電子音が鳴ります。
再度、長押しすると電源が切れます。

4. 押しながら話す
[**通話 (PTT)**] を押しながらマイクに向かって話す。

- ディスプレイに“送信”と“通話”が表示されます。
- [**通話 (PTT)**] を放すと、待ち受け状態になり相手の音声を聞くことができます。

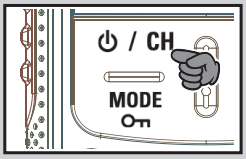


チャンネル表示

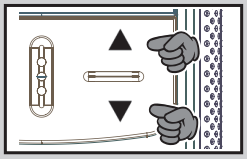
2. チャンネルをあわせる
[⏻ /CH] を短押しで、チャンネル設定モードにする。チャンネルが点滅している間に [▲] または [▼] を押して、相手と同じチャンネルにする。

3. 音量を調節する
相手の音声を受信しているときに [▲] または [▼] を押して音量を調節する。

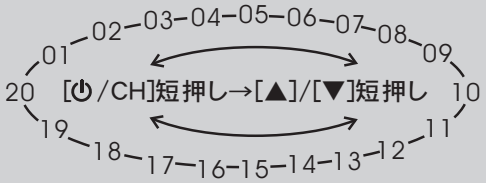
チャンネルの設定方法



[⏻ /CH] を単押し
(チャンネル設定モード)



チャンネル番号が点滅している間に [▲] または [▼] を押す



図のようにチャンネルが変わります

補足

○ 連続して通話できる時間は 3 分以内で、その間ディスプレイに“通話”が表示されます。
3 分間連続して通話し続けると、送信は自動的に停止します。
なお、送信が停止する 30 秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウンが表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。
また、送信が停止した場合、その後の 2 秒間は [**通話 (PTT)**] を押しても「プープープープーッ・・・」と警告音が鳴り送信できません。

○ 他局の信号を受信しているときは、送信できません。
ディスプレイに“受信”が表示中、[**通話 (PTT)**] を押しても「プープープープーッ・・・」と警告音が鳴り送信できません。

注意

- **当社製機器は、カタログのリストに掲載されるモトローラ純正アクセサリーを必ず使用してください。**
  純正品以外のアクセサリーを使用すると故障や破損の原因になります。当社純正品以外のアクセサリーの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、当社では一切責任を負いません。
- **ニッケル水素充電池 (PMNN4467A) は純正アクセサリーをご使用ください。**
  純正品以外のニッケル水素充電池を使用すると漏液・発熱・破裂・発火の原因になります。
- **アクセサリーのヘッドセットを接続する時は音量を最小にしてください。**
  [▼] キーで音量を最小レベルに設定してから接続してください。
  音量を上げた状態で接続すると聴力障害の原因になったり、ヘッドセットを破損するすることがあります。
- **アクセサリーのヘッドセットを接続する時は、本体の PTT を押してもヘッドセットのマイクが有効になります。**

3. 基本的な操作

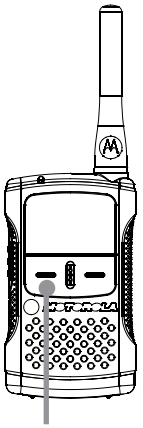
キーをロックする

誤ってキーに触れても、設定が変わらないようにすることができます。

ロック中は下記の操作のみ可能です。
- 音量調節
- 通話（PTT）
- 電源オフ

■ロックする

[MODE/ ⚿] を長押しする。
「ピピッ」と鳴ってキーがロックされ、“⚿”が点灯します。


[MODE/ ⚿] 長押し

■ロックを解除する

再度 [MODE/ ⚿] を長押しする。
「ププッ」と鳴ってキーのロックが解除され、“⚿”が消えます。

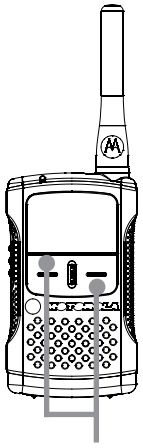
一時的にモニターをする

■モニターにする

1. [⏻ /CH] を長押しで、電源を切る。
2. [▼] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。

■モニターを解除する

一度電源を切り、再度 [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。


[▼] + [⏻ /CH] 長押し

3. 基本的な操作

通話モードの設定

通話を行うモード（通話モード）として、次の 3 通りの方法があります。
周囲の状況に応じて使い分けてください。

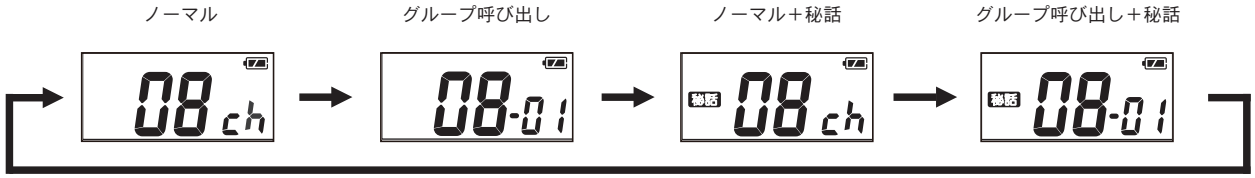
ノーマルモード ➠ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき
（基本的な通話のしかたを参照）

グループ呼び出しモード ➠ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき
チャンネル番号とグループコード（または DCS）が一致すると通話ができます

秘話モード ➠ 他の人に通話を聞かれたくないとき

■通話モードを切り替える

[**MODE/ On**] を押すたびにモードが切り替わる。
初期値はノーマルモードに設定されています。



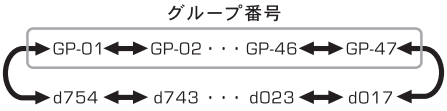
グループ呼び出しモード

■グループの設定

運用する前に仲間同士で同じクループ番号に設定します。

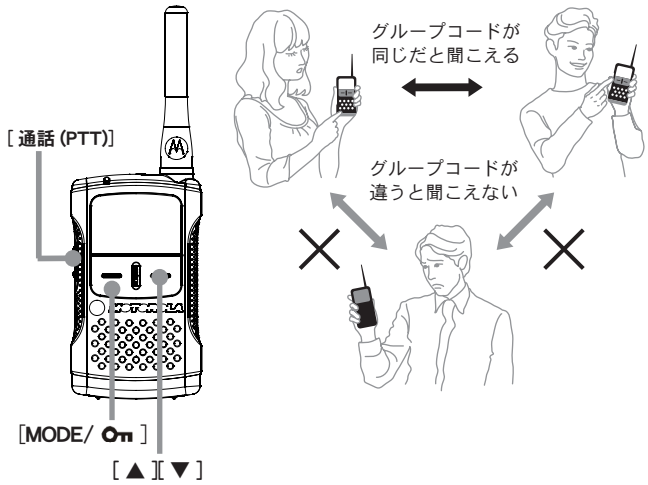
初期値は“01”に設定してあります。

1. [**MODE/ On**] を押してグループ呼び出しモードにする。
   現在設定しているグループコードが表示されます。
2. [**MODE/ On**] を押しながら [▲] を押す。
   グループコードが点滅します。
3. [▲] または [▼] を押してグループコードを選ぶ。
   GP-01 ～ GP-47（47 通り）から選択します。



4. [**通話 (PTT)**] を押す。
   設定が終了します。

注意 グループコードが 38 通りの MS50 や MS80 と通話する場合は、GP-1 ～ GP-38 以内で設定してください。それ以外のグループコードを使用すると通話できなくなります。



■通話のしかた

“基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

補足 他人の通話が聞こえる場合は、グループコードを変更してください。

DCS(デジタルコードスケルチ) を使用する

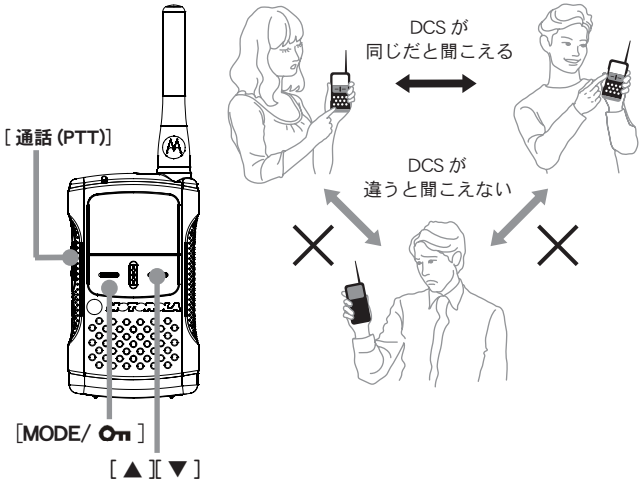
グループ呼び出しモードが不足した場合は、108 種類の DCS (d017 ～ d754) を使用することができます。

■ DCS の設定

運用する前に仲間同士で同じ DCS に設定します。

1. [**MODE/**] を押してグループ呼び出しモードにする。
   現在設定しているグループコードが表示されます。
2. [**MODE/**] を押しながら [▲] を押す。
   グループコードが点滅します。
3. [▲] または [▼] を押して DCS コードを選ぶ。
   d017 ～ d754（108 種類）から選択します。

4. [**通話 (PTT)**] を押す。
   設定が終了します。



■通話のしかた

“基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

補足 他人の通話が聞こえる場合は、DCS を変更してください。

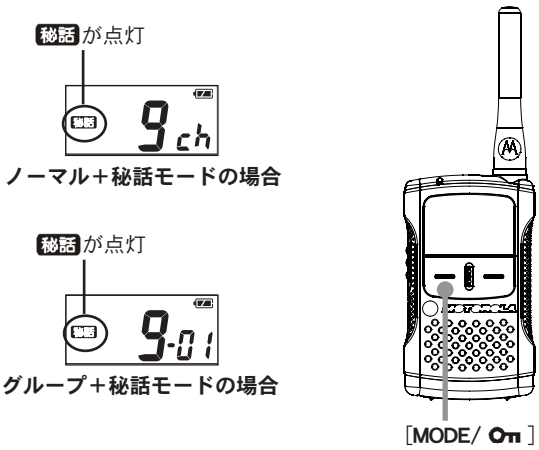
秘話モード

秘話モードに設定していない人は、通話内容を聞き取れなくなります。
秘話モードは、ノーマルモード、グループ呼び出しモードのどちらでも使用することができます。

補足
- ○ 仲間同士以外でも、同じチャンネルで秘話機能を動作させていれば、通話内容を聞かれる場合がありますので、重要な内容の交信は控えるようにしてください。
- ○ 秘話機能付トランシーバーでも、機種が違うと、交信できない場合があります。
- ○ CL08 以外のトランシーバーと通話をすると、音色が異なる場合があります。

■秘話モードに切り替える

“秘話” が点灯するまで、[**MODE/**] を何度か押す。



■通話のしかた

“基本的な使いかた”（13 ページ) と同様に通話します。

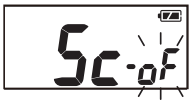
3. 基本的な操作

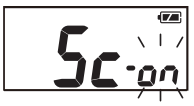
セットメニューの操作

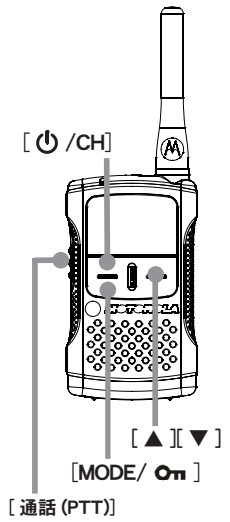
各メニューの設定を変更するときは次の手順で行います。

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
   セットメニューの“cb-xx”が表示されます。
3. [MODE/ ⚿] を押すたびに、セットメニューが切り替わる。
   設定したいメニューを選択します。
   例：“Sc-xx”を選択
4. [▲] または [▼] を押して、点滅している設定項目を選択する。
5. [**通話 (PTT)**] を押す。
   セットメニューの設定が終了します。

補足 [**通話 (PTT)**] 以外に電源を切っても、セットメニューの設定を終了することができます。







セットメニュー一覧

表示	設定項目	選択項目	初期値
cb -xx	コールバック機能（通話可能か常時チェックしたい）	OFF/ON	OFF
Sc-xx	スキャン機能（自動で受信信号を探す）	OFF/ON	OFF
bP-xx	ビープ音の ON/OFF（ボタン操作の確認音）	ON/OFF	ON
tb-xx	送信ビープ音の ON/OFF（[通話 (PTT)] を押して送信を始めた際に電子音が鳴る）	OFF/ON	OFF
LE-xx	送受信状態表示の ON/OFF	ON/OFF	ON
LP-xx	照明ランプの設定（OFF にするとディスプレイの照明が常時消灯）	2/OFF	2
AP-xx	オートパワーオフの設定（2 時間操作しないと自動で電源が切れる、切れ忘れ防止）	OFF/ON	OFF
cS- x	呼び出し音送出機能（電子音の数で相手局を識別する機能）	1 ～ 5	1
Pd-xx	PTT ディレイ機能（受信から待ち受け状態になるときに出るノイズ「ザー」をカット）	ON/OFF	ON
tP-xx	受信専用モードの設定（ON にすると [通話 (PTT)] を押しても送信しない）	OFF/ON	OFF
Ph-xx	PTT ホールド機能（ロック型の [通話 (PTT)] に変わる）	OFF/ON	OFF
EG-xx	外部マイク感度切替え（数字が大きくなるほど感度が大きくなる）	1 / 2 / 3	2
oc-xx	VOX 機能の ON/OFF（話し始めると自動で送信、話をやめると待ち受けになる）	OFF/ON	OFF
oL-xx	VOX 感度設定（数字が大きくなるほど感度が大きくなる）	1 ～ 15	9
or-xx	VOX 遅延時間設定（話をやめてから待ち受けの状態に戻るまでの時間）	0 ～ 15	5(約 0.5 秒)
Ac-xx	自動チャンネル選択機能（[通話 (PTT)] を押すたびに自動で空チャンネルを探す）	OFF/ON	OFF
AL-xx	マイク自動感度切替え機能（ON にすると自動で適切なマイク感度になる）	OFF/ON	OFF
cP-xx	コンパンダー機能（マイクから拾うバックノイズを軽減する）	OFF/ON	OFF
hE-xx	音質切替え機能（1 に設定すると高域が強調された音質になる）	1 / 2	2
Sq-xx	スケルチレベル調整（耳障りなノイズを消す：数字が大きいほどスケルチレベルが大）	1 / 2 / 3 / 4	1
Sl-xx	セレコールの ID 設定（特定の局を呼び出す）	OFF/01 ～ 20	OFF
SG-xx	セレコールのグループ設定（グループで呼び出す）	G0 ～ G9	G0
Sb-xx	セレコールの呼び出し音送出設定（呼び出されたときの着信音を設定する）	1～ 3/OFF	1
cL-xx	クローン機能 (複数台数ワイヤレスで同じ設定に複製する)	OFF/ON	OFF
PS-xx	ワンタッチ音量変更（受信時 PTT のワンタッチで音量を一時的に変更する）	PT/ ーー /-3/+3	PT
IA- xx	内蔵マイクの ON/OFF（外部マイク接続時にトランシーバー側の [通話 (PTT)] を押したときの内蔵マイクを動作するか、または動作しないかを設定する）	OFF/ON	OFF

VOX 機能 ～音声で自動送信をする～

PTT スイッチを押さなくても、音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。
話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

注意
- スピーカーから音が出ているときは、VOX 機能は動作しません。
- この VOX 機能は本機単体で使用するもので、アクセサリーの外部マイクロホンでは使用できません。
- キーや音量ツマミを操作したときの振動がマイクに伝わり、誤送信することがあります。
- VOX 感度を上げると周囲の音で誤送信することがあります。
- PTT ホールド機能及び自動マイク感度切り替え機能と同時に使用することはできません。

■ VOX 機能を設定する

VOX 機能を使用するときは機能の設定を ON にします。

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⚿] を押して “oc-xx” を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	VOX 機能を OFF にします。
on	VOX 機能を ON にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■通話のしかた

本機の内蔵マイクに向けて、話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

■ VOX 感度を設定する

送信状態になるときの感度を設定します。

補足 周囲の雑音が大きく、話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX 感度を下げて（数値を小さくする）ください。

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⚿] を押して “oL-xx” を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

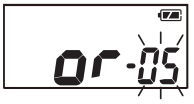
1 ～ 9 (初期値) ～ 15	VOX 感度を設定します。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■ VOX 遅延時間を設定する

話をやめてから待ち受け状態に戻るまでの時間を、約 0.1 秒間隔で 0 秒（設定値 “0”）～ 1.5 秒（設定値 “15”）の間で設定することができます。

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⚿] を押して “or-xx” を選択する。



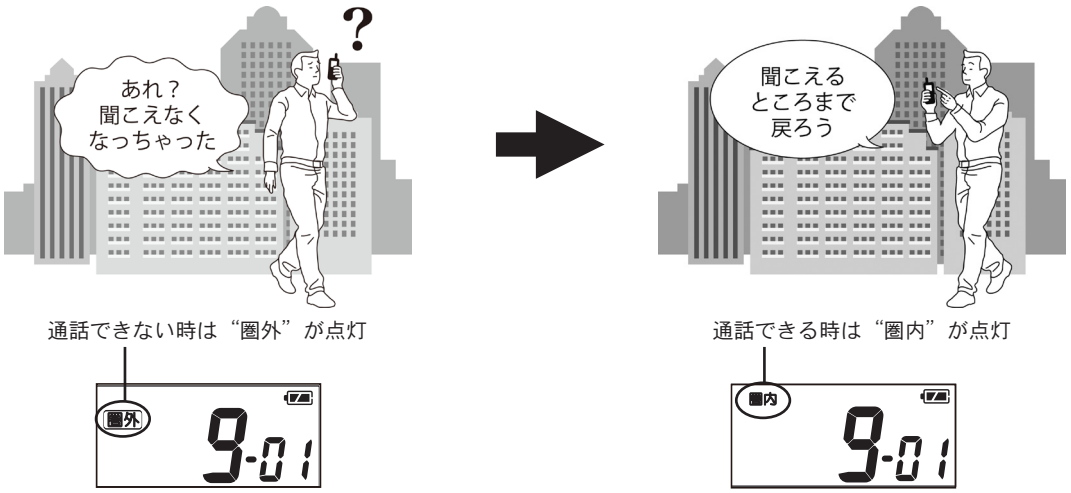
4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

0 ～ 5 (初期値) ～ 15	VOX 遅延時間を設定します。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

コールバック機能　～通話可能か常時チェックしたい～

グループ呼び出しモード時に、コールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」、電子音とアイコンで常時チェックしながら通話ができます。



	状 況	電子音	アイコン表示
通話可能	相手と通信できる範囲にいる 相手の電源が入っている	約 1 分後に一度だけ「ピピッ」と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点灯する
通話不可能	相手と通信できない場所にいる 相手の電源が切れている	約 1 分後に一度だけ「ププッ」と鳴る	電子音が鳴った後“圏外”が点灯する

■コールバック機能を設定する

1. [**MODE/** ⚷] を押してグループ呼び出しモードにする。
   仲間同士で決めたグループコードとチャンネル番号になっているか確認します。
   異なる場合は、“グループ呼び出しモード”（15 ページ）を参照して、同じグループコードとチャンネル番号に切り替えてください。

2. [⏻ **/CH**] を長押しで電源を切る。
3. [**MODE/** ⚷] を押しながら [⏻ **/CH**] を長押しで、電源を入れる。
4. [**MODE/** ⚷] を押して“cb-xx”を選択する。

5. [▲] または [▼] を押して設定項目を選択する。コールバック機能を使用する場合は“cb-on”にする。

oF(初期値)	コールバック機能を OFF にします。
on	コールバック機能を ON します。

6. [**通話 (PTT)**] を押す。
   セットメニューの設定が終了し、ディスプレイに“圏外”が点灯します。
   コールバック機能をオフにすると“圏外”は消灯します。

7. コールバック機能が動作する。
   相手局と通話可能か定期的に自動で送信してチェックします。
   通話可能であれば“圏内”、通話不可能であれば“圏外”が点灯します。

補足

- ○ コールバック機能が動作中、通話することも可能です。
  “基本的な使いかた”（13 ページ）と同様に通話できます。
- ○ 同じチャンネルで同じグループコードが他の使用者に使われているときは、“グループ呼び出しモード”（15 ページ）を参照して、仲間同士で他のグループコードに切り替えてください。
- ○ 他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが、受信状態（ディスプレイに“受信”が表示）になり、通話できません。

4. 便利な機能

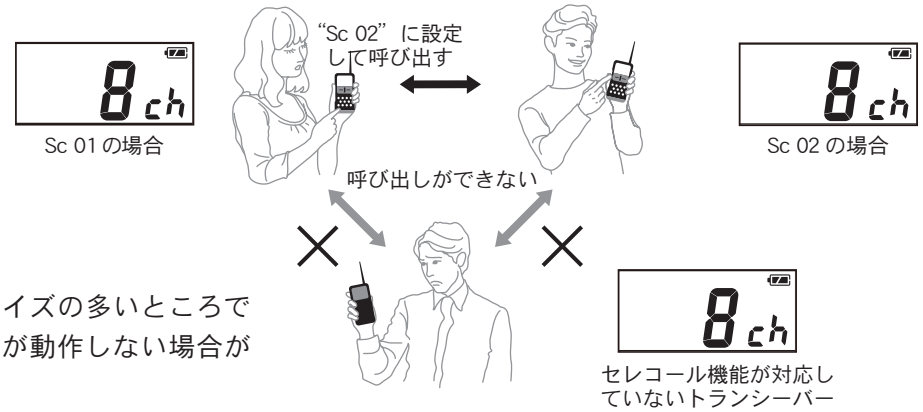
セレコール機能　～特定の局を呼び出したい～

セレコールは 3 種類の呼び出しができます。

◎ 個別呼び出し（Sc　01 ～ Sc　20）・・・・・・・01 ～ 20 から選択した相手局のみ呼び出すことができます。
◎ グループ呼び出し（Sc　G0 ～ Sc　G9）・・・・0 ～ 9 から選択したグループのみ呼び出すことができます。
◎ 全局一斉呼び出し（ALL）・・・・・・・・・・・一斉に呼び出すことができます。

補足
○ 呼び出されたときは、アラームで知らせることができます。
○ 機能を使用する場合は、あらかじめ仲間同士でセレコール ID とグループナンバーの設定が必要です。
○ グループ呼び出しモードや秘話モードでもセレコール機能を使用することができます。
○ セレコール機能が対応していないトランシーバーで、同じチャンネルを待ち受けしても呼び出しをすることはできません。

特定の相手局を呼び出す場合



注意 電波の弱い場所やノイズの多いところでは、セレコール機能が動作しない場合があります。

■セレコール機能を使用する前の準備

セレコール機能を使用する前に、下記の準備をしてください。

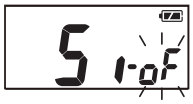
自局のセレコール ID を設定する
↓
自局のグループを設定する

補足 セレコール機能の運用は 21 ページを参照してください。

注意 セレコール機能は下記の機能と同時に使用することはできません。セレコール機能が優先されます。
・コールバック機能
・VOX 機能
・自動チャンネル選択機能

■自局のセレコール ID を設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⊶] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⊶] を押して“SI-xx”を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、セレコール ID を選択する。

oF（初期値）	セレコール機能を OFF にします。
01 ～ 20	自局のセレコール ID を選択します。

5. [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■自局のグループを設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⊶] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⊶] を押して“SG-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、グループを選択する。

G0（初期値）～ G9	自局のグループを選択します。

5. [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

4. 便利な機能

■セレコール着信音を設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ 🔑] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ 🔑] を押して “Sb-xx” を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、着信音を選択する。

oF	着信音を OFF にします。
1（初期値）	ビープ：パターン 1
2	ビープ：パターン 2
3	ビープ：連続

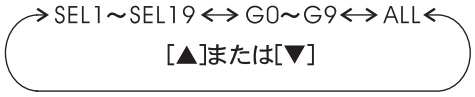
5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
   セットメニューの設定が終了します。

■セレコール呼び出しをする

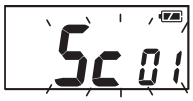
補足 あらかじめ自局のセレコール ID を設定してください（20 ページ参照）。

1. チャンネルスイッチをまわして、相手局と同じチャンネルにあわせる。
2. [MODE/ 🔑] を押しながら [▼] を押す。
   セレコール選択画面になります。

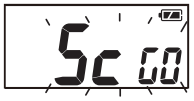
3. [▲] または [▼] で呼び出し方法を選択する。



◎ 個別で呼び出す
呼び出したい相手局のセレコール ID（Sc 01 ～ Sc 20）を選択します。



◎ グループで呼び出す
呼び出したいグループ（Sc G0 ～ Sc G9）を選択します。



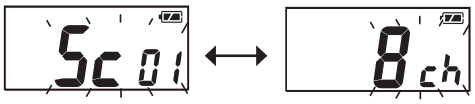
◎ 全局を呼び出す
Sc AL を選択します。

4. 上記のいずれかが表示されている時に、[**通話 (PTT)**] を押す。

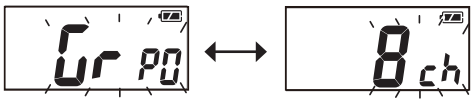
■セレコール呼び出しを受けた時

個別呼び出しとグループ呼び出しは、「着信音が鳴る」とともに、ディスプレイにセレコール表示とチャンネルが点滅し着信を知らせます。

◎ 個別呼び出しを受けたとき



◎ グループ呼び出しを受けたとき



◎ 全局呼び出しを受けたとき（変化しない）

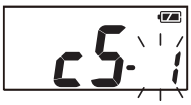
4. 便利な機能

呼び出し音送出機能 ～呼び出し音で識別して呼び出したい～

本機に呼び出し音を設定することができます。
最大 5 局まで設定することができ、初期値は 1 に設定されています。
仲間同士で違う番号の呼び出し音を設定しておくと、自局に設定した電子音の回数が相手局に送出され、誰から呼ばれたのか判断することができます。

■コールサインを設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ 🔑] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ 🔑] を押して “cS-x” を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、コールサインを選択する。

数字	電子音
1	ピロロッ
2	ピロロッ ピロロッ
3	ピロロッ ピロロッ ピロロッ
4	ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ
5	ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■相手を呼び出す

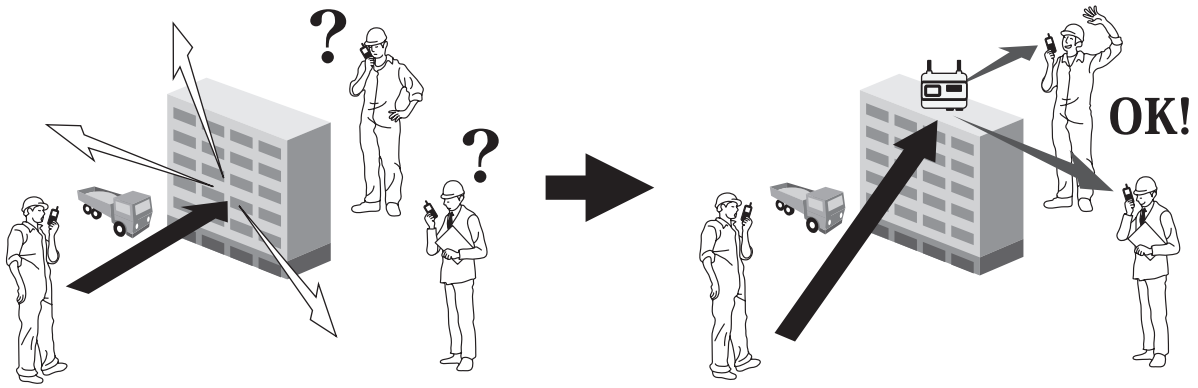
送信中に [MODE/ 🔑] を押す。
押している間だけ相手にコールサインを送ることができます。

4. 便利な機能

中継機能（通話距離をのばすには）

途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できないときは、当社対応の中継器を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。

なお中継器の詳細については、お買い上げいただきました販売店または当社 PCR 事業部にお問い合わせください。



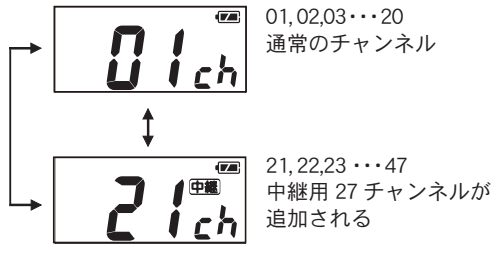
注意 中継器を介した場合は、下記の機能を使用することができません。

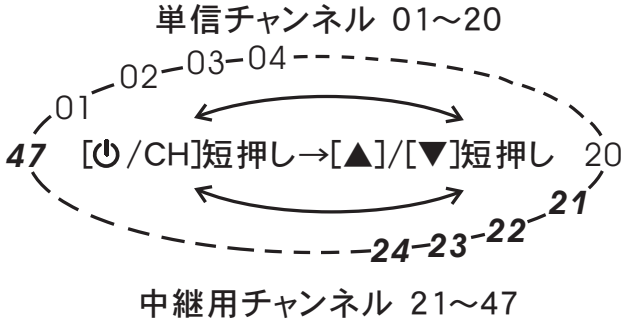
・コールバック機能　　・セレコール機能
・自動チャンネル選択機能　　・クローン機能

■中継機能を設定する

下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル (合計 27 チャンネル) が追加されます。

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [▲] を押しながら [⏻/CH] を押して、電源を入れる。中継機能用のチャンネルが追加されます。
3. [⏻ /CH] を短押しで、チャンネル設定モードにする。
4. [▲] または [▼] を押して、中継器のチャンネルに設定する。





■設定を解除する

1. [**電源 (⏻)**] を長押しで電源を切る。
2. [▲] を押しながら [**電源 (⏻)**] を押して、電源を入れる。

■通話のしかた

1. [▲] または [▼] を押して、中継用チャンネルの中で中継器と同じチャンネル番号にあわせます。
2. “基本的な通話のしかた” と同様に通話します。

補足
- グループ呼び出しモードを使用することができます (中継器と同じグループコードにあわせてください)。
- 当社指定の中継器のみ使用可能です。

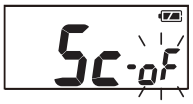
5. その他の機能設定

スキャン機能 ～受信信号を探す～

自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、信号がなくなると、約 10 秒後に再びスキャンを開始します。

■スキャン機能を設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⚿] を押して“Sc-xx”を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

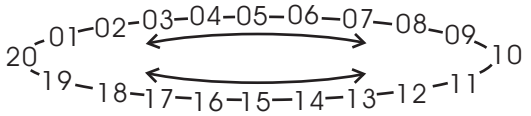
oF（初期値）	スキャン機能を OFF にします。
on	スキャン機能を ON にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

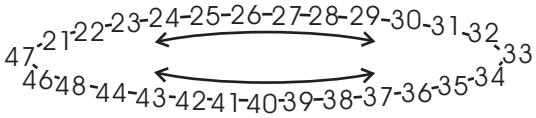
■スキャンを開始する

[▲] または [▼] を約 1 秒以上押す。
チャンネルをスキャンすることができます。

補足 スキャンを開始したチャンネルからスキャンします。



中継機能用チャンネルが追加された場合、中継機能用チャンネルからスキャンを開始すると中継機能用チャンネルのみスキャンします。



■スキャン方向を変更する

スキャン中に [▲] または [▼] を押す。
スキャン方向を変えることができます。

■スキャンを止める

[MODE/ ⚿] または [**通話 (PTT)**] を押す。

5. その他の機能設定

自動チャンネル選択機能 ～空チャンネルを探す～

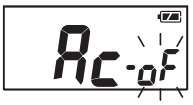
[**通話 (PTT)**] を押すたびに、誰も使用していないチャンネルを自動で探し出し、相手局と交信することができます。

補足 相手のトランシーバーも、自動チャンネル選択機能を ON にしてください。

注意 自動チャンネル選択機能は下記の機能と同時に使用することはできません。
自動チャンネル選択機能が優先されます。
・スキャン機能
・コールバック機能

■自動チャンネル選択機能を設定する

1. [⏻ **/CH**] を長押しで電源を切る。
2. [**MODE/** 🔒] を押しながら [⏻ **/CH**] を長押しで、電源を入れる。
3. [**MODE/** 🔒] を押して“Ac-xx”を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	自動チャンネル選択機能を OFF にします。
on	自動チャンネル選択機能を ON にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了し、チャンネル表示が“AU”に変わります。

■自動チャンネル選択機能を開始する

[**通話 (PTT)**] を押して、一呼吸おいてから通話する。
押した瞬間に、誰も使用していないチャンネルを自動的に探します。

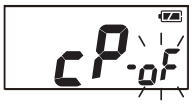
コンパンダー機能 ～バックノイズを軽減する～

相手が話しているときに聞こえる「サー」というバックノイズを軽減し、相手の音声を聞き取りやすくします。

補足 相手のトランシーバーも、コンパンダー機能を ON にしてください。

■コンパンダー機能を設定する

1. [⏻ **/CH**] を長押しで電源を切る。
2. [**MODE/** 🔒] を押しながら [⏻ **/CH**] を長押しで、電源を入れる。
3. [**MODE/** 🔒] を押して“cP-xx”を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	コンパンダー機能を OFF にします。
on	コンパンダー機能を ON にします。

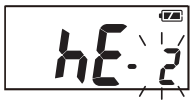
5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

音質切り替え機能 ～高域を強調した受信音にする～

通常の受信音より高域を強調した音質に切り替えることができます。

■音質切り替え機能を設定する

1. [⏻ **/CH**] を長押しで電源を切る。
2. [**MODE/** 🔒] を押しながら [⏻ **/CH**] を長押しで、電源を入れる。
3. [**MODE/** 🔒] を押して“hE-xx”を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

1	高域を強調した音質になります。
2（初期値）	通常の音質です。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

5. その他の機能設定

スケルチレベル設定 ～耳障りなノイズを消す～

信号が入感していないときに出る、耳障りなノイズ（「ザーッ」音）を消すことができます。

補足 ○ スケルチレベルを上げすぎるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。
○ 数字が大きいほどレベルが高くなります。

■スケルチレベルを設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⊶] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⊶] を押して“Sq-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、レベルを設定する。

1（初期値）	スケルチレベル - 小
2	スケルチレベル - 中
3	スケルチレベル - 大
4	スケルチレベル - 最大

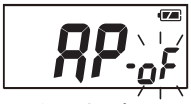
5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

オートパワーオフ機能 ～電源切り忘れ防止～

2 時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にします。 1 分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。

■オートパワーオフ機能を設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⊶] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⊶] を押して“AP-xx”を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。
ON に設定すると、ディスプレイに ⏻ が点灯します。

oF（初期値）	オートパワーオフの設定を OFF にします。
on	オートパワーオフの設定を ON にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

PTT ディレイ機能 ～耳障りなノイズを消す（グループ呼び出しモード）～

相手の信号を受信してから、待ち受け状態になるときに「ザーッ」と出る耳障りなノイズ音をカットして受信します。

補足 相手のトランシーバーも、PTT ディレイ機能を ON にしてください。

■ PTT ディレイ機能を設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⊶] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⊶] を押して“Pd-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

on（初期値）	PTT ディレイ機能を ON にします。
oF	PTT ディレイ機能を OFF にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

5. その他の機能設定

ビープ音の設定 ～ボタン操作確認音～

ボタンやスイッチを押したときに、確認音として電子音が鳴ります。

補足 初期値は ON に設定されています。
ビープ音が耳障りなときは OFF に設定してください。

■ビープ音を設定する

1. [**⏻ /CH**] を長押しで電源を切る。
2. [**MODE/ 🔒**] を押しながら [**⏻ /CH**] を長押しで、電源を入れる。
3. [**MODE/ 🔒**] を押して“bP-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

on（初期値）	ビープ音の設定を ON にします。
oF	ビープ音の設定を OFF にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

送信ビープ音の設定 ～送信操作確認音～

[**通話 (PTT)**] を押して送信を始めた際に電子音が鳴り、送信状態になったことを音で確認することができます。

■送信ビープ音を設定する

1. [**電源 (⏻)**] を長押しで電源を切る。
2. [**MODE/ 🔒**] を押しながら [**電源 (⏻)**] を長押しで、電源を入れる。
3. [**MODE/ 🔒**] を押して“tb-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、“ON”を選択する。

oF（初期値）	送信ビープ音の設定を OFF にします。
on	送信ビープ音の設定を ON にします。

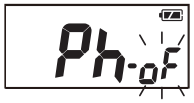
5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

PTT ホールド機能

初期値は [**通話 (PTT)**] を押している間送信し、放すと待ち受けの状態になりますが、“ON”に設定すると [**通話 (PTT)**] を一度押すと送信状態のままになり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻るホールド機能付き PTT スイッチに変更することができます。
連続送信時間は最大 3 分間で、 3 分が経過すると、自動的に待ち受けの状態に戻り、約 2 秒間「プーップーッ」と警告音が鳴ります。
警告音が鳴り終わってから再び送信したい場合は、再度 [**通話 (PTT)**] を押してください。

■ PTT ホールド機能を設定する

1. [**⏻ /CH**] を長押しで電源を切る。
2. [**MODE/ 🔒**] を押しながら [**⏻ /CH**] を長押しで、電源を入れる。
3. [**MODE/ 🔒**] を押して“Ph-xx”を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	PTT ホールド機能を OFF にします。
on	PTT ホールド機能を ON にします。

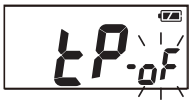
5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

送信禁止機能 ～ガイドシステム子機として使用時に便利～

ON に設定すると、[**通話 (PTT)**] を押しても「プープー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“Err”と表示されて送信できません。

■送信禁止機能を設定する

1. [**⏻ /CH**] を長押しで電源を切る。
2. [**MODE/ 🔒**] を押しながら [**⏻ /CH**] を長押しで、電源を入れる。
3. [**MODE/ 🔒**] を押して“tP-xx”を選択する。



4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	送信禁止機能を OFF にします。
on	送信禁止機能を ON にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

5. その他の機能設定

送受信状態表示の設定

ディスプレイを確認せず、LED の点灯色で送信（赤）受信（緑）を確認することができます。通常は ON に設定されており、LED インジケーターを OFF にすることができます。

■ LED インジケーターを設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⚿] を押して“LE-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

on（初期値）	インジケーター機能を ON にします。
oF	インジケーター機能を OFF にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

照明ランプの設定

通常は 2 に設定されており、ボタンを押すと照明ランプが約 2 秒間点灯します。OFF にすると、照明ランプを常時消灯することができます。

■照明ランプを設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⚿] を押して“LP-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

2（初期値）	照明ランプが約 2 秒間点灯します。
oF	照明ランプを常時消灯します。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

外部マイクの感度設定（外部マイクのみ）

外部マイクの感度を調節することができます。

■外部マイクの感度を設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⚿] を押して“EG-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

1	外部マイクの感度 - 小
2（初期値）	外部マイクの感度 - 標準
3	外部マイクの感度 - 大

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

マイク自動感度切り替え機能

声の大小に応じて、自動的に適切なマイク感度に切り替わります。

■マイク自動感度切り替えを設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ ⚿] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ ⚿] を押して“AL-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	自動感度切替機能を OFF にします。
on	自動感度切替機能を ON にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

5. その他の機能設定

クローン機能 ～同じ設定に複製する～

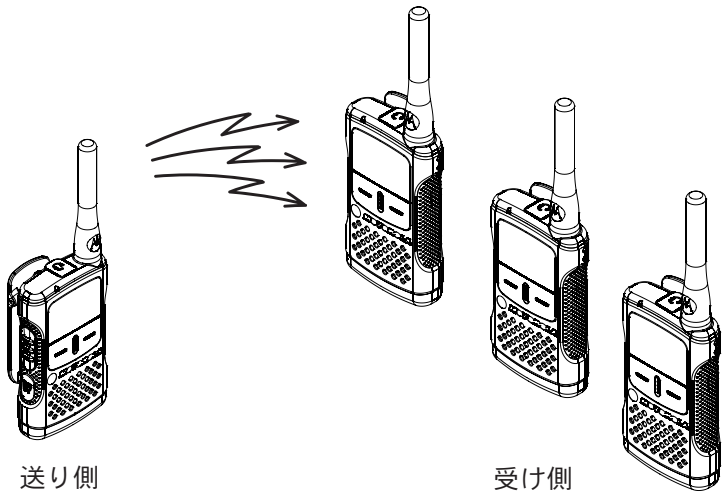
送り側に設定してある内容をワイヤレスで複数台一斉にコピーすることができます。

コピーできる設定内容は下記のようになります。

◎現在設定しているチャンネル / グループコード /DCS コード

◎現在設定している通話モード（ノーマル / グループ呼び出し / 秘話）

◎セットメニューの設定内容



送り側　　受け側

注意
- ○ 雑音の多い場所でクローン機能を行うと正常にコピーできない場合があります。
- ○ 送り側と受け側を 1 m以内に近づけた状態で、クローンを行ってください。
- ○ ニッケル水素充電池は十分充電されている（アルカリ乾電池は新品）電池を使用してください。クローン中に電池が切れるとデーターを破損する場合があります。

■クローン機能を設定する

1 受け側を設定する

1. [⏻ /CH] を長押しで電源を切る。
2. [MODE/ 🔒] を押しながら [⏻ /CH] を長押しで、電源を入れる。
3. [MODE/ 🔒] を押して“cL-xx”を選択する。

4. [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。クローン機能を行う場合は ON に設定します。

oF（初期値）	クローン機能を OFF にします。
on	クローン機能を ON にします。

5. [**通話 (PTT)**] を押す。
   ディスプレイに“CCcL”が表示される。

2 送り側を設定する

6. 受け側と同様、手順 1. ～ 5. の操作を行う。
7. [**通話 (PTT)**] を押す。
   データーが送出されます。

   補足
   - ○ 受け側は正常にコピーされると「ピピッ」と音がして、コピーされたチャンネルをディスプレイに表示します。
   - ○ “CCcL”のまま変化しない場合は、再度 [**通話 (PTT)**] を押すと送り側からデーターが送出されます。
8. 電源を切る。
   セットメニューの設定を終了します。

   補足 電源を OFF にすることで、クローン機能は OFF になりますので、セットメニューで OFF にする必要はありません。

6. 付 録

故障かな？ と思うまえに...

間違った操作をしていませんか？
修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

◎ 電源が入らない！

・電池は正しく取り付けてありますか？
　電池の極性（＋）（－）をご確認ください。
・電池は消耗していませんか？
・アクセサリーのニッケル水素充電池（PMNN4467A）は十分に充電してありますか？

◎ 送信できない！

・通話（PTT）スイッチを正しく押していますか？
・送信禁止機能が ON になっていませんか？
・相手が話し中ではありませんか？
　信号を受信してディスプレイに“受信”が点灯しているときは、送信できません。
・外部マイク使用の場合、きちんと緩みなく接続されていますか？

◎ 通話できない！

・相手と同じ通話モード（ノーマルモード・グループ呼び出しモード・秘話モード）に設定していますか？
・相手と同じチャンネルに設定していますか？
・相手と同じグループコード（または DCS コード）に設定していますか？
・相手との距離が離れすぎていませんか？

◎ 勝手に電源が切れる！

・オートパワーオフ機能が設定されていませんか？
・電池が消耗していませんか？
・アクセサリーのニッケル水素充電池（PMNN4467A）は十分に充電してありますか？

◎ グループ呼び出しモードで運用中に他の人の通話が聞こえる！

・モニター機能になっていませんか？
　電源を切り、再度電源を入れると解除されます。
・他の人も同じグループコードや DCS コードを使用している場合があります。
　グループコードまたは、DCS コードを変えてください。

◎ 充電できない！

・使用温度範囲を超えていませんか？
　充電機能は、５℃～３５℃で動作します。
・専用の充電池を使用していますか？
・専用の充電用アダプターを使用していますか？
・無線機本体の電源を OFF にしていますか？

6. 付 録

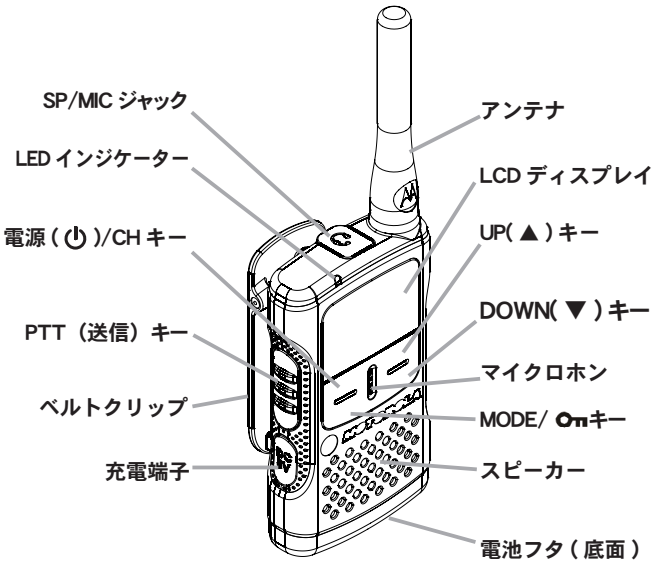
定 格

送受信周波数（**12.5kHz ステップ**）：01ch ～ 11ch：422.0500MHz ～ 422.1750MHz
12ch ～ 20ch：422.2000MHz ～ 422.3000MHz
制御チャンネル：422.1875MHz
中継装置使用時 :
21ch ～ 38ch：送信 440.0250MHz ～ 440.2375MHz
受信 421.5750MHz ～ 421.7875MHz
39ch ～ 47ch：送信 440.2625MHz ～ 440.3625MHz
受信 421.8125MHz ～ 421.9125MHz

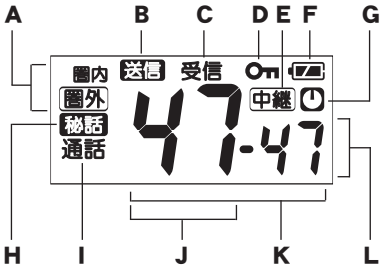
電波型式：F3E/F2D
通信方式：単信および半複信方式
送信出力：10mW 以下（電波法施行規則第 6 条適合）
受信感度：－ 121dB m（@ 12dB SINAD）
低周波出力：50mW 以上（@ 8 Ω、50mW 時歪率 5% 以下）
電源電圧 1.2V 時
動作温度範囲：－ 10℃～＋ 50℃
定格電圧：DC 1.2V
動作電圧範囲：DC 1.0V ～ 1.8V
本体寸法：53.5 × 91.0 × 17.5mm
（幅×高さ×奥行き：アンテナおよび突起部を含まず）
本体重量：約 112g（アルカリ乾電池を含む）

RoHS 指令準拠
この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります。

CL08 概要一覧



LCD ディスプレイ



A. コールバック使用時に点灯 “圏内”が点灯（通話可能） “圏外”が点灯（通話不可能）	**F**. 電池残量表示
B. 送信時に表示	**G**. オートパワーオフ表示 オートパワーオフを ON にすると点灯
C. 受信時に表示	**H**. 秘話モード時に表示
D. キーパッドロック表示 キーパッドをロックしたときに点灯	**I**. 3分間通話中表示 **J**. チャンネル番号表示
E. 中継チャンネル表示 中継チャンネル時に点灯	**K**. セットメニューの表示 **L**. グループコード表示

キー操作早見表	
キー	**動作**
[⏻ /CH]	短押し：チャンネル設定モード（▲▼で設定） 長押し：電源の ON/OFF
[MODE/ On]	短押し：通話モードの切り替え（グループ呼び出し、DCS、秘話） 長押し：キーパッドロック
[▲]	短押し：ワンステップ音量大 長押し：押している間音量大
[▼]	短押し：ワンステップ音量小 長押し：押している間音量小
[MODE/ On] + [⏻ /CH]	セットメニューの操作
[▲] + [⏻ /CH]	中継機能チャンネル追加
[▼] + [⏻ /CH]	モニター機能
[▲] + [▼] + [MODE/ On] + [⏻ /CH]	工場出荷時リセット
[▲] + [MODE/ On]	グループ呼び出しモード /DCS モードの設定

セットメニュー一覧			
表示	**設定項目**	**選択項目**	**初期値**
cb -xx	コールバック機能（通話可能か常時チェックしたい）	OFF/ON	OFF
Sc-xx	スキャン機能（自動で受信信号を探す）	OFF/ON	OFF
bP-xx	ビープ音の ON/OFF（ボタン操作の確認音）	ON/OFF	ON
tb-xx	送信ビープ音の ON/OFF（[通話 (PTT)] を押して送信を始めた際に電子音が鳴る）	OFF/ON	OFF
LE-xx	送受信状態表示の ON/OFF	ON/OFF	ON
LP-xx	照明ランプの設定（OFF にするとディスプレイの照明が常時消灯）	2/OFF	2
AP-xx	オートパワーオフの設定（2 時間操作しないと自動で電源が切れる、切れ忘れ防止）	OFF/ON	OFF
cS- x	呼び出し音送出機能（電子音の数で相手局を識別する機能）	1 ～ 5	1
Pd-xx	PTT ディレイ機能（受信から待ち受け状態になるときに出るノイズ「ザー」をカット）	ON/OFF	ON
tP-xx	受信専用モードの設定（ON にすると [通話 (PTT)] を押しても送信しない）	OFF/ON	OFF
Ph-xx	PTT ホールド機能（ロック型の [通話 (PTT)] に変わる）	OFF/ON	OFF
EG-xx	外部マイク感度切替え（数字が大きくなるほど感度が大きくなる）	1 / 2 / 3	2
oc-xx	VOX 機能の ON/OFF（話し始めると自動で送信、話をやめると待ち受けになる）	OFF/ON	OFF
oL-xx	VOX 感度設定（数字が大きくなるほど感度が大きくなる）	1 ～ 15	9
or-xx	VOX 遅延時間設定（話をやめてから待ち受けの状態に戻るまでの時間）	0 ～ 15	5(約 0.5 秒)
Ac-xx	自動チャンネル選択機能（[通話 (PTT)] を押すたびに自動で空チャンネルを探す）	OFF/ON	OFF
AL-xx	マイク自動感度切替え機能（ON にすると自動で適切なマイク感度になる）	OFF/ON	OFF
cP-xx	コンパンダー機能（マイクから拾うバックノイズを軽減する）	OFF/ON	OFF
hE-xx	音質切替え機能（1 に設定すると高域が強調された音質になる）	1 / 2	2
Sq-xx	スケルチレベル調整（耳障りなノイズを消す：数字が大きいほどスケルチレベルが大）	1 / 2 / 3 / 4	1
SI-xx	セレコールの ID 設定（特定の局を呼び出す）	OFF/01 ～ 20	OFF
SG-xx	セレコールのグループ設定（グループで呼び出す）	G0 ～ G9	G0
Sb-xx	セレコールの呼び出し音送出設定（呼び出されたときの着信音を設定する）	1～ 3/OFF	1
cL-xx	クローン機能 (複数台数ワイヤレスで同じ設定に複製する)	OFF/ON	OFF
PS-xx	ワンタッチ音量変更（受信時 PTT のワンタッチで音量を一時的に変更する）	PT/ −− /-3/+3	PT
IA- xx	内蔵マイクの ON/OFF（外部マイク接続時にトランシーバー側の [通話 (PTT)] を押したときの内蔵マイクを動作するか、または動作しないかを設定する）	OFF/ON	OFF

CL08 チャンネル / 周波数相対表

単信用（各チャンネルに送る周波数割り当て）

チャンネル	周波数 (MHz)
1	422.0500
2	422.0625
3	422.0750
4	422.0875
5	422.1000
6	422.1125
7	422.1250
8	422.1375
9	422.1500
10	422.1625
11	422.1750
12	422.2000
13	422.2125
14	422.2250
15	422.2375
16	422.2500
17	422.2625
18	422.2750
19	422.2875
20	422.3000

中継用（各チャンネルに送る周波数割り当て）

チャンネル	送信周波数	受信周波数
21	421.575	440.025
22	421.5875	440.0375
23	421.6000	440.0500
24	421.6125	440.0625
25	421.6250	440.0750
26	421.6375	440.0875
27	421.6500	440.1000
28	421.6625	440.1125
29	421.6750	440.1250
30	421.6875	440.1375
31	421.7000	440.1500
32	421.7125	440.1625
33	421.7250	440.1750
34	421.7375	440.1875
35	421.7500	440.2000
36	421.7625	440.2125
37	421.7750	440.2250
38	421.7875	440.2375
39	421.8125	440.2625
40	421.8250	440.2750
41	421.8375	440.2875
42	421.8500	440.3000
43	421.8625	440.3125
44	421.8750	440.3250
45	421.8875	440.3375
46	421.9000	440.3500
47	421.9125	440.3625

MOTOROLA

モトローラ製品のお問い合わせ先 03-6365-7000
ホームページ ..... http://www.motorolasolutions.com/JP

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。

モトローラ、MOTOROLA、モトローラのロゴマーク及び ® 表示が付された商標は米国およびその他の国における Motorola, Inc. の登録商標です。文中に記載されている他社の製品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。
本製品は「外国為替及び外国貿易管理法」(日本) 及び「米国輸出管理規制」による規制を受けますので、当製品を輸出する場合は、同法に基づく手続きが必要です。

モトローラ・ソリューションズ株式会社 PCR 事業部
〒 106-0032 東京都港区六本木 1-8-7 アーク八木ヒルズ

© Copyright 2014 Motorola Solutions, Inc.
All rights reserved.

MN000817A01